

市民学コース ⑥ 富士見の歴史

中世から 現代までの「富士見市の民俗芸能」の歴史

第1回 埼玉県の民俗芸能 ① 獅子舞

平成29年6月10日(土) 10時～12時 鶴瀬公民館

講師 元埼玉県立博物館 学芸員 飯塚 好氏



第40期、富士見の歴史講座は埼玉県の民俗芸能を取り上げました。特に富士見市と三芳町の民俗芸能を紹介する事にいたしました。

第1回目は元埼玉県立博物館学芸員飯塚好氏を講師に招き、埼玉県の民俗芸能「獅子舞」について講義して頂きました。講座受講性は33名でした。

埼玉県の民俗芸能「獅子舞」の起源としては、解っていることは天文年間の史料残されておりますが、歴史としてはそれ以前から行われていたとの事です。

大別すると東日本は三匹獅子舞が大半で、西日本は福井県

を除き三匹獅子舞はないとの事です。」これは江戸時代に川越藩主が福井県に改易された際に川越の獅子舞を現地に教えた事によるとの事です。

三匹獅子舞は男獅子、女獅子、中獅子（男、息子）で舞うもので、演目は十数種あるとの事です。舞の目的は奉納であり、悪疫退散、五穀豊穰、風祭り、雨乞い及び災難除け等があります。この獅子舞の埼玉県での分布は多く、現在でも200近くあるとの事です。

特に秩父や川越に多いとの事です。富士見市にも数種の獅子舞が現存しています。最後に問題点としては、どの地域も獅子舞を舞う人たちが特定の人たちであったために後継者不足との事です。そのために休止したり、辞めていく会がいくつもあったとの事です。

但し、最近では獅子舞社中が幅広く人材を入れて後継者不足を補っているとの事です。



